

地域名	麦種(品種)	生育(作柄・品質)概況等
水戸	11月6日播種 小麦 (さとのそら) 六条大麦 (カシマムギ) (カシマゴール) 11月20日播種 小麦 (さとのそら)	<p>◇気象概況:麦類の生育期間(過去5年間の平均値との比較) 平均気温:11月～2月(播種～茎立期)はかなり高く、3月(茎立期から穂ばらみ期)はかなり低く、4月～6月第1半旬(出穂期～成熟期)はかなり高かった。 なお、麦類の茎立ち期～穂ばらみ期に当たる3月20日～24日に最低気温が氷点下となり、11月6日播種「さとのそら」、「カシマムギ」の5～10%で幼穂凍死が見られた。</p> <p>降水量:11月～2月は平年並、3月はかなり多く、4月～6月第1半旬はやや少なかった。</p> <p>日照時間:11月～2月は平年並、3月はかなり多く、4月～6月第1半旬はかなり少なかった。</p> <p>各麦の生育概要は次のとおりであった(過去5年間の平均値との比較)。 (11月6日播種) ●さとのそら 11～2月の高温により生育が前進化し、茎数は2月までかなり多く推移した。また、葉色は生育過剰に伴い、3月上旬調査でかなり淡くなった。3月の低温により生育が停滞したため、出穂期は平年並(1日早い)、成熟期は平年並(0日)となった。 穂数は平年よりやや少なく、一穂当たり稔実粒数は少なかった。整粒重は52.5kg/aで平年並だった。 幼穂凍死に伴う出穂のバラツキや、黒節病・赤カビ病の発生(微発生)等により、充実不足となったため、粒厚分布は2.8mm以上がかなり少なく小粒傾向であった。</p> <p>●カシマムギ 11～2月の高温により生育が前進化し、茎数は2月まで多～かなり多く推移した。また、葉色は過剰生育に伴い、2月中旬から淡く推移した。3月の低温により生育が停滞したため、出穂期は平年並(0日)、成熟期も平年並(0日)となった。 穂数は平年並で、一穂当たり稔実粒数はかなり少なかった。幼穂凍死や黒節病・赤カビ病の発生(微発生)、倒伏等に伴い充実不足となり、整粒重は35.6kg/aでかなり少なく、千粒重・容積重はかなり軽く、タンパク質含有率は平年並となった。 粒厚分布は平年より2.4mm以上が少なく、小粒傾向だった。検査等級は2等で、充実不足だった。</p> <p>●カシマゴール 11～2月の高温により生育が前進化し、茎数は2月までかなり多く推移した。また、葉色は過剰生育に伴い、2月中旬からかなり淡く推移した。3月の低温により生育が停滞したため、出穂期は平年並(0日)、成熟期は平年並(1日早い)となった。 穂数は平年並で、一穂当たり稔実粒数はかなり少なかった。暖冬による過剰生育や、黒節病・赤カビ病の発生(微発生)等に伴い充実不足となり、整粒重は35.0kg/aで平年よりかなり少なく、千粒重はかなり軽く、容積重は軽く、タンパク質含有率は低かった。 粒厚分布は平年より2.4mm以上がかなり少なく、小粒傾向だった。検査等級は2等で、充実不足だった。</p> <p>(11月20日播種) ●さとのそら 11～2月の高温により生育が前進化し、茎数は3月上旬までかなり多く推移した。また、葉色は生育の前進化に伴い、3月上旬調査でかなり淡くなった。3月の低温により生育が停滞したため、出穂期は平年よりやや早く(2日早い)、成熟期は平年並(1日早い)となった。 穂数は平年並で、一穂当たり稔実粒数は平年並だった。整粒重は45.5kg/aで平年並だった。 千粒重はやや軽く、容積重は平年並、タンパク質含有率はかなり低かった。 粒厚分布は2.8mm以上がかなり少なく、小粒傾向だった。検査等級は1等だった。</p>

表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

播種期 (月.日)	麦種	品種名	出穂期			成熟期			登熟日数			稈長			穂長			穂数		
			本年 (月.日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (月.日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (日)	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)
11.6	小麦 六条大麦	さとのそら	4.14	+3	-1	6.06	+1	0	53	-1	-1	84.6	93	100	8.5	100	102	580	102	94
		カシマムギ	4.06	+1	0	5.23	+2	0	45	-2	-2	85.3	96	101	4.2	95	100	517	90	97
		カシマゴール	4.04	+2	0	5.22	+2	-1	48	0	0	85.3	99	100	4.2	83	100	615	120	106
11.20	小麦	さとのそら	4.17	+3	-2	6.07	0	-1	51	-3	+2	81.0	94	104	8.7	106	113	575	95	100

播種期 (月.日)	麦種	品種名	倒伏程度			一穂当たり稔実粒数			粗子実重			整粒重			整粒歩合		
			本年	前年	平年	本年 (粒)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (%)	前年 (%)	平年 (%)
11.6	小麦 六条大麦	さとのそら	0.1	0.0	0.0	29.0	89	93	53.4	91	103	52.5	91	103	98.4	98.8	98.4
		カシマムギ	2.7	1.4	1.4	39.6	70	74	44.8	70	80	35.6	61	72	79.4	90.2	87.7
		カシマゴール	0.8	0.0	0.1	43.0	78	80	47.7	68	78	35.0	58	65	73.4	85.7	87.6
11.20	小麦	さとのそら	0.0	0.0	0.0	28.6	91	99	46.3	86	103	45.5	85	103	98.2	99.0	98.2

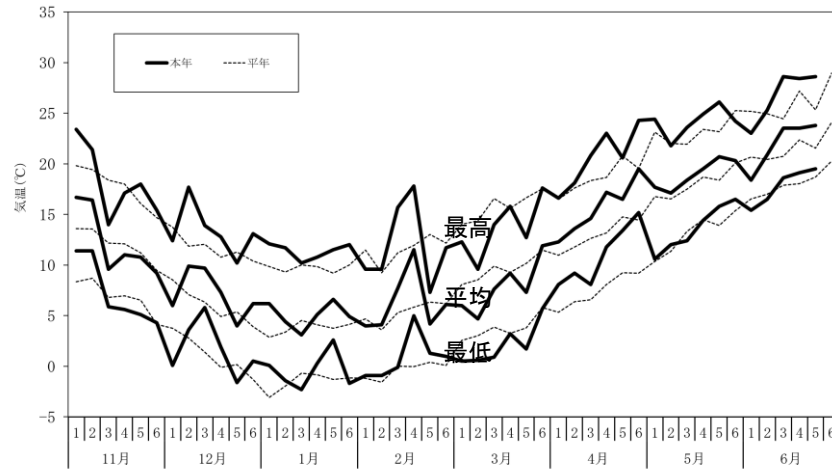
播種期 (月.日)	麦種	品種名	千粒重			容積重			タンパク質含有率			外観品質			検査等級		
			本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g/L)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (%)	前年 (%)	平年 (%)	本年	前年	平年	本年	前年	前々年
11.6	小麦 六条大麦	さとのそら	36.1	90	91	833	99	100	10.7	92	93	5.5	5.5	5.3	1	1	1
		カシマムギ	28.7	92	91	672	93	94	9.8	91	99	6.0	5.0	5.6	2	1	2
		カシマゴール	27.0	91	88	704	96	96	9.0	91	91	6.0	5.0	5.5	2	2	2
11.20	小麦	さとのそら	37.0	91	95	835	99	100	10.6	91	89	5.5	5.5	5.3	1	1	1

播種期 (月.日)	麦種	品種名	本年 粒厚分布(重量%)							平年 粒厚分布(重量%)						
			2.8mm 以上	2.8~ 2.5	2.5~ 2.4	2.4~ 2.3	2.3~ 2.2	2.2~ 2.0	2.0mm 以下	2.8mm 以上	2.8~ 2.5	2.5~ 2.4	2.4~ 2.3	2.3~ 2.2	2.2~ 2.0	2.0mm 以下
11.6	小麦 六条大麦	さとのそら	52.1	38.2	5.8	2.4	0.7	0.6	0.3	65.9	26.3	4.5	1.7	0.6	0.6	0.4
		カシマムギ	0.2	19.0	23.0	23.2	14.1	16.5	4.1	2.8	35.0	24.6	16.8	8.6	9.4	2.8
		カシマゴール	0.1	12.9	20.2	26.3	14.6	19.6	6.4	2.4	27.1	27.0	20.7	10.4	9.8	2.7
11.20	小麦	さとのそら	45.0	44.7	6.3	2.2	0.9	0.7	0.1	63.1	27.4	5.6	2.0	0.8	0.7	0.4

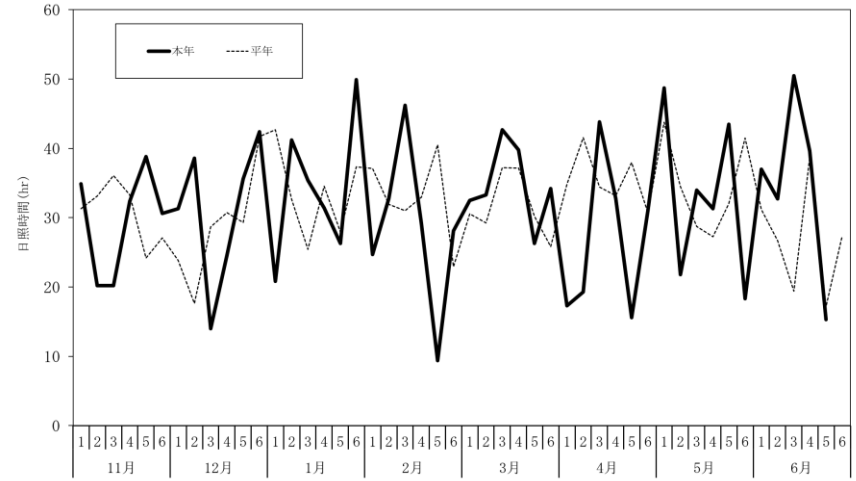
- 注) 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(前作休耕畑) 2)播種量:0.8kg/a
 3)施肥量:N-P₂O₅-K₂O=0.6-0.6-0.6kg/a 4)播種様式:畦幅30cm、シーダーテープ播種
 5)平年値:平成30年~令和4年播種の結果の平均。 6)麦踏み:12月18日(11月6日播種)、12月27日(11月20日播種)、1月26日、2月15日
 7)倒伏程度:0(無)~5(甚)の6段階 8)整粒重:小麦は2.3mm、六条大麦は2.2mmの篩上の子実重。
 9)千粒重・容積重・タンパク質含有率はグレーダー調製後の整粒で計測した。 10)粗子実重・整粒重・千粒重は、小麦が水分12.5%、六条大麦が水分13.0%換算。
 11)タンパク質含有率は近赤外線多成分分析機(インフラテック1241型)による。水分13.5%換算。 12)外観品質:1(上の上)~5(中の中)~9(下の下)
 13)検査等級:JA全農いばらき米穀部による。1:1等、2:2等、外:等外

麦(令和5年播種)における半旬別気象経過

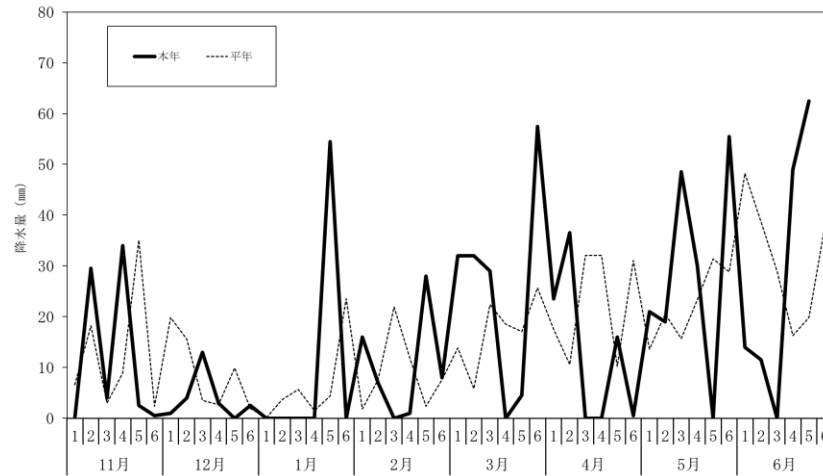
気温



日照時間



降水量



さとのそら(11月6日播種)

カシマムギ(11月6日播種)

カシマゴール(11月6日播種)

さとのそら(11月20日播種)

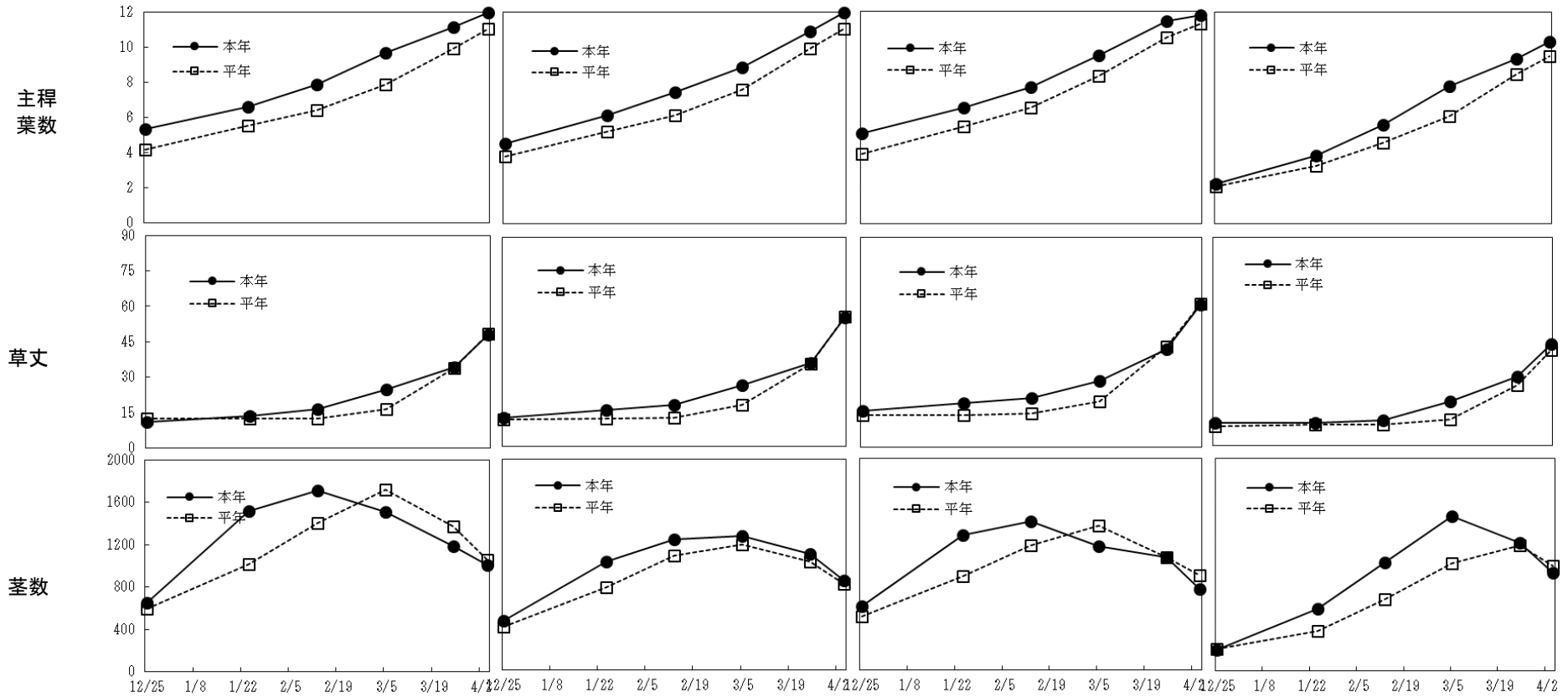


図2 葉数・草丈・茎数の推移

気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

